

事業所防災リーダー通信 vol.8

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。

事業所防災リーダーへのご登録、ありがとうございました！
東京都防災リーダー事務局からのお知らせです。
本メールは、事業所防災リーダーとして登録された際のメールアドレスにお送りしています。

<< 事業所防災リーダー必携⑧ >>

消防訓練を考えてみましょう。

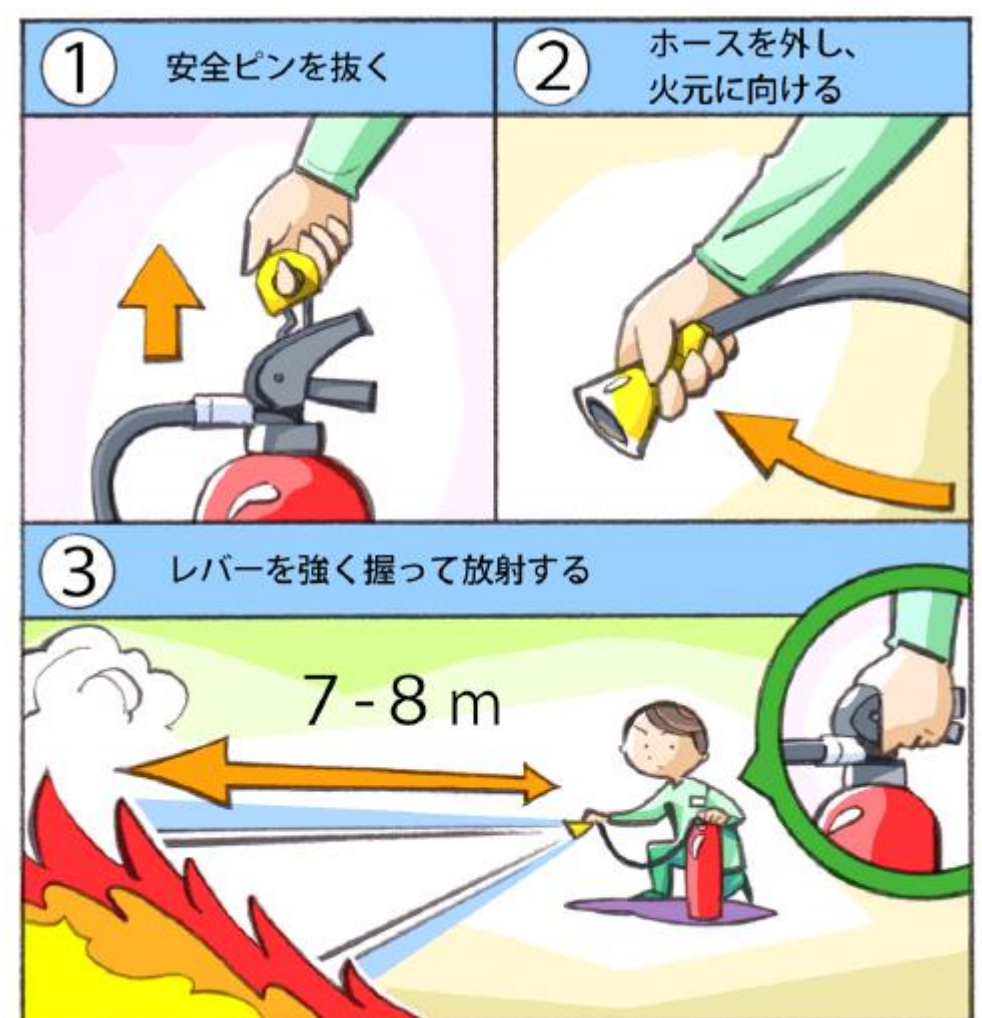
「火災」は地震や水害といった自然災害よりもさらに身近な災害ですが、対応する自信がありますか？

火災発生直後の初期消火が成功すれば、避難も被害も最小限で済む一方、延焼が拡大するとヒトやモノ、そして会社の事業に甚大な被害をもたらします。

◆消防訓練のポイントその1：消火器を確認する

実際に水消火器等を使って実演訓練ができればよいですが、従業員全員で行うことは難しい場合があります。誰でもできる工夫をして、消火器の存在を意識するようにします。

- 消火器の使い方について周知します。消防署のホームページ等にある資料を活用するとよいでしょう。
- フロアマップ等を用意し、従業員各自で自部署の近くの消火器の場所を調べ、マップに書き込みましょう。
- 可能なら、フロアや部署単位で近くにある消火器を実際に集めてみましょう。集めるのにどのくらいかかるか体感します。



火災の火は出火後2分程度で立ち上がり、壁面に燃え移ると言われています。**火災対応は「時間との勝負」**です。消火薬剤の有効な噴射時間は粉末消火器で10秒から15秒程度、強化液消火器でも1分程度しかもちません。そのため、**近くにある消火器をたくさん集めることが必要**です。

火が天井まで届いてしまった場合は、「延焼」となります。これ以上は消火器では太刀打ちできません。消火活動は中断し、一刻も早く避難しましょう。